《ジャンケン先生おもしろチャレンジ教室》
12号　2020/5/22

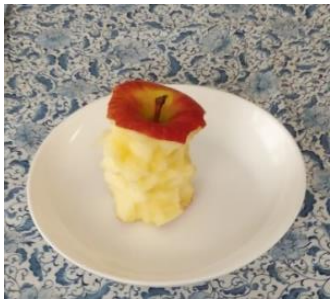
# 魔法『作文、大好きになあれ』その⑤

3～6年生向き

きょうは、メダがお話しします。とてもおもしろく、不思議な勉強でした。

この写真を見たとき、すぐ思った。「かじったのはだれだ」って。ジャンケン先生は「だれも写っていないのに、『だれだ』って、みんな思ったよね。不思議だね。」

「見えないものを見る」が特別なことではなく、ふつうように思えてきたの。これも不思議。



これが、次の写真。見たとたん、「あれっ、全部かじってしまったのはだれだ」。そして、そのだれかも見えてきたの。「食べたのはひとり。大人ではない、子ども。子どもでも大きいお兄ちゃん。おなかがすいていたお兄ちゃん。だから、時間は3時か4時頃」　なんで、そう思ったのかなあ。「見えない」のに見えてきた。

次の写真がこれ。「わあ、みんなで食べるのか。」　切り分けた人、食べる人、家族みんなが見えてきた、不思議。「楽しそう、おいしい」という見えないものも見えてくる。

みなさん、「見えないものが見えてきた」でしょう。

三時

ボーン、ボーン、ボーン、時計が三時を知らせました。二階からおりてきた私は「おかあさん、きょうのおやつ、何」と少し大きな声で話しかけました。おかあさんは「そこにおいてあるでしょ」と答えました。テーブルに見ると、白いお皿に切り分けたくだものがきれいにならんでいました。それは、赤くふちどられた白い花びらのように見えました。よく見ると、皮の赤色に黄色の小さな点々がたくさんまじっています。それに気づくと、よけいおいしそうに見え、早く食べたくなりました。

ハ個なので、一人に二個だなと思い、「おかあさん、先に『いただきます』していい」と聞いてみました。でも、やはり答えは「だめ。フォーク、出してくれる」でした。

私は元気な声で天じょうに向かって「はい」と返事をして台所に行きました。

メダ

私はこんな作文が書けました。なんだか、小説家みたいで、楽しかった。